令和８年度「品川区学力定着度調査」の結果から明らかになった課題と学力向上に向けた取組

「品川区学力定着度調査」の趣旨

(1)学習指導要領に示された教科の目標や内容の実現状況を把握し、教育課程や指導方法等に関わる区の課題を明確にすることで、その充実・改善を図るとともに、区の教育施策に生かす。

(2)各学校は、教育課程や指導方法に関わる自校の課題・解決策を明確にするとともに、調査結果を経年で把握することで、児童・生徒一人一人の学力の向上を図る。

(3)区民に対し、区立学校における児童・生徒の学力等の状況について、広く理解を求める。

1　調 査 日　令和８年４月１４日（火）

2　調査対象　品川区立学校　第２～９学年の全児童・生徒

3　調査内容
教科に関する調査
→　調査の趣旨に基づき、学習指導要領に定める内容について、基礎・基本および活用の力を測る問題で構成

<第２・３学年>　国語、算数
<第４～５学年>　国語、社会、算数、理科
<第　６　学年>　国語、社会、算数、理科、英語
<第７～９学年>　国語、社会、数学、理科、英語

品川区立御殿山小学校

国語（実施学年：２～６年）

１．定着状況についての概要

		教科の正答率		観点別正答率	
		基礎	活用	知識・技能	思考・判断・表現
２年	目標値	81.0	56.3	85.6	63.9
	校内平均正答率	**90.3**	**74.4**	**93.6**	**79.1**
	区平均正答率	85.2	65.9	89.1	71.7
３年	目標値	79.0	56.9	77.8	67.1
	校内平均正答率	**87.4**	**68.6**	**86.8**	**77.1**
	区平均正答率	85.3	64.0	84.5	73.7
４年	目標値	74.1	58.8	74.5	65.7
	校内平均正答率	**82.7**	**75.3**	**84.1**	**77.8**
	区平均正答率	77.7	67.3	79.5	71.0
５年	目標値	69.4	55.6	72.7	59.7
	校内平均正答率	**81.3**	**72.7**	**83.9**	**74.7**
	区平均正答率	75.2	65.7	77.6	68.3
６年	目標値	66.1	50.0	65.5	58.0
	校内平均正答率	**82.6**	**71.4**	**80.8**	**77.9**
	区平均正答率	75.5	61.8	73.3	69.8

全学年、全項目で目標値および区平均正答率を上回っており、学習内容が概ね身に付いている。基礎問題については全学年８割の正答率を超えている一方で、活用問題は基礎問題より正答率が低くなっている。また、思考・判断・表現の正答率は、知識・技能の正答率より低い。

２．各学年における主な課題と課題解決のための方策

	主な課題	課題解決のための方策
２年	全ての領域で目標値、区の平均正答率を上回った。内容別に見ると、「はなしをききとる」問題で目標値を下回った。	日常の授業において、話の要点やキーワードに着目し、集中して聞く態度を育てる。聞いた内容について答える活動を取り入れ、事柄の順序を意識しながら大事なことを落とさずに聞く力を高める。
３年	全ての領域で目標値、区の平均正答率を上回った。「言葉の特徴や使い方に関する事項」「書くこと」の正答率は目標値を上回った。ポイントは、６ポイント～８ポイント程度にとどまった。	「言葉の特徴や使い方」と「書くこと」の学力を高めるために、言葉への気付き→活用→書く活動の３段階で授業を行っていく。授業では、言葉の違いに気付かせ、言葉への感度を高める。また中帯などの時間で、つなぎ言葉を使った文章作りや辞書を使った語彙クイズ、語彙を入れ替えて文の印象の違いを比較するような時間を取り入れていく。
４年	ほとんどの領域において目標値、全国の平均回答率は上回っているが、「言葉の学習」のローマ字で表記されたものを正しく読む問題の正答率は、目標値並みだった。	「言葉の学習」のローマ字学習において、３年時の学習を復習する時間を十分に確保する。また、教科横断的な学習指導として、毎週実施している外国語活動でもアルファベット(大文字・小文字)を習得・活用する学習活動を多く設けるようにしていく。
５年	ほとんどの領域で目標値、区の平均正答率を上回った。特定の漢字と「書くこと」については、他の問題に比べて正答率が目標値に近かった。	漢字の学習においては、日々の宿題や漢字テストを通して、多くの漢字が定着できるように繰り返し指導を行う。「書くこと」については、文章構成を考えたり、内容の中心を考えたりできるように指導をしていく。
６年	ほとんどの領域で、目標値、全国の平均正答率を上回った。「話し手の目的に応じて、話の内容を捉えている。」については、目標値に近かった。	話の中の何を聞き取るべきなのか、話の構造はどうなっているかについて、つなぎ言葉への意識や友達との聞き取りの振り返りなどの活動を取り入れていく。

社会（実施学年：４～６年）

１．定着状況についての概要

		教科の正答率		観点別正答率	
		基礎	活用	知識・技能	思考・判断・表現
４年	目標値	70.0	48.6	70.6	55.5
	校内平均正答率	**79.9**	**59.6**	**80.5**	**66.0**
	区平均正答率	74.6	54.7	75.3	60.9
５年	目標値	68.1	55.7	64.3	65.0
	校内平均正答率	**80.9**	**69.9**	**78.1**	**77.4**
	区平均正答率	75.3	63.3	71.6	72.5
６年	目標値	67.6	62.8	68.4	62.9
	校内平均正答率	**81.0**	**77.7**	**82.2**	**77.0**
	区平均正答率	75.3	71.3	76.1	71.2

全学年、全項目において目標値および区平均正答率を上回っており、学習内容が概ね身に付いている。ただし、学年によって校内目標値の 80%に到達していないところがあるので、各単元の学習内容を把握し、社会科における見方・考え方を働かせる授業を展開できるようにする。

２．各学年における主な課題と課題解決のための方策

学年	主な課題	課題解決のための方策
４年	「市の様子の移り変わり」において、市の人口と鉄道の利用者数の変化について、資料をもとに考える問題の正答率が目標値を下回った。	どの単元においても、資料を活用した授業を展開する。「比較」したり、「多面的・多角的」に考えたりするなど、様々な見方・考え方を働かせて、資料の読み取りができるようにしていく。
５年	多くの領域において区の平均正答率、全国の平均正答率を上回った。しかし、「ごみの出し方のルールについて、資料を読み取る」問題だけが、目標値を下回った。	資料を読み取る際に、注目するポイントや比較する視点をもつことができるようにする。授業の中で資料の提示を工夫したり、資料を読み取る時間を設けたりして、資料活用力の向上を図る。
６年	全ての領域において区の平均正答率、全国の平均正答率を上回った。「日本の貿易」「森林の働き」「自然環境を守る取り組み」などの資料から判断する問題については、目標値に近かった。	資料から何が言えるのか、共通点や相違点について比較してまとめたり、関連付けて自分の考えを表したりする授業を、重点的に展開する。

算数（実施学年：２～６年）

１．定着状況についての概要

学年		教科の正答率		観点別正答率	
		基礎	活用	知識・技能	思考・判断・表現
２年	目標値	79.6	65.7	81.2	62.5
	校内平均正答率	**85.7**	**72.8**	**86.8**	**71.1**
	区平均正答率	84.4	73.6	86.2	69.3
３年	目標値	78.0	63.3	77.2	66.7
	校内平均正答率	**84.2**	**73.0**	**84.3**	**72.8**
	区平均正答率	81.4	67.5	79.4	69.1
４年	目標値	75.0	61.4	75.5	60.0
	校内平均正答率	**83.3**	**74.6**	**83.8**	**73.2**
	区平均正答率	81.3	69.1	81.8	67.5
５年	目標値	64.5	57.5	67.0	48.8
	校内平均正答率	**76.8**	**68.7**	**78.7**	**61.5**
	区平均正答率	70.9	62.9	72.6	56.1
６年	目標値	67.3	53.8	69.2	54.1
	校内平均正答率	**84.6**	**76.9**	**85.8**	**76.9**
	区平均正答率	78.2	66.2	79.7	67.0

全学年において目標値および区平均正答率を上回っており、学習内容が概ね身に付いている。しかし、学年によっては基礎問題と活用問題で正答率に大きく差があり、指導方法の工夫改善が必要である。

２．各学年における主な課題と課題解決のための方策

学年	主な課題	課題解決のための方策
２年	「測定」領域で区の平均正答率を下回った。「図形」領域では、目標値と区の平均正答率を下回った。	「測定」や「図形」領域の学習において、具体的・体験的な操作活動を重視するとともに、身の回りにある長さやかさ、形と結び付けながら実感を伴った理解につなげる。
３年	全ての領域で目標値、区の平均正答率を上回った。「数と計算」では九九の表を広げた 12 のかけ算の正答率が目標値を下回った。	児童が変化の関係を実感できるように具体物、図、言葉、式を復習する時間を確保し、実践する。乗数と積の関係について、考え方が定着できるようにする。
４年	「大きい数・小数点・分数」の十進位取り記数法について理解しているかを問う問題の正答率が目標値を下回った。	少人数習熟度別学習を引き続き実施し、一人一人のニーズに合った学習を展開する。また、年間指導計画を工夫し、「大きい数・小数点・分数」について復習する時間を十分に確保できるようにする。
５年	「平行四辺形の作図」のみ、校内平均正答率が目標値の半分程度であった。昨年度と同様に作図に課題が見られた。	図形の作図において、児童が三角定規やコンパスなどの特徴を理解できるように指導方法を工夫する。図形の性質を用いることによって作図できることを授業で体験できるようにする。
６年	「合同な三角形の作図」についての問題で目標値を下回った。	作図の問題では、合同条件をもとに作図ができるように合同条件の理解を深めたり、作図の仕方の復習をしたりする。

理科（実施学年：４～６年）

１．定着状況についての概要

		教科の正答率		観点別正答率	
		基礎	活用	知識・技能	思考・判断・表現
４年	目標値	64.5	53.8	61.2	61.4
	校内平均正答率	**71.0**	**61.5**	**66.6**	**69.7**
	区平均正答率	69.6	58.0	65.9	66.4
５年	目標値	65.5	41.1	61.5	52.9
	校内平均正答率	**74.8**	**53.5**	**70.7**	**64.6**
	区平均正答率	68.7	44.0	63.4	57.7
６年	目標値	61.8	45.5	59.7	51.3
	校内平均正答率	**71.4**	**54.4**	**70.3**	**59.0**
	区平均正答率	66.4	50.7	64.8	55.7

全項目において目標値および区平均正答率を上回っており、学習内容が概ね身に付いている。「知識・技能」の項目では、５・６年生の正答率は目標値と 10 ポイント程度上回ったが、４年生の正答率は目標値を５ポイント程度上回るにとどまり、５・６年生に比べ正答率が低い。知識の定着のため、指導方法の改善を図る必要がある。

２．各学年における主な課題と課題解決のための方策

学年	主な課題	課題解決のための方策
４年	「身近なしぜんのかんさつ」の「虫眼鏡の使い方」の問題の正答率が、目標値を下回った。	観察の学習では、虫眼鏡の使い方を再度確認し、繰り返し使用することで、習得・活用できるようにする。
５年	「自然の中の水」の内容の正答率が低かった。特に「結露」を答える問題は、唯一目標値を下回った。	「実験や観察から得たことを考察する力」と、「学びをつなげる力」の２つを伸ばせるように指導していく。考察で考えた文章を共有する時間や既習事項と新しく学んだことを結び付ける時間を設ける。児童が、自分で学んだことを言語化できる力を伸ばしていく。
６年	「ふりこの１往復する時間の違いが、ふりこの長さの変化によって生じたことを指摘できる」の問題では、目標値を 10 ポイント以上下回った。	毎回の実験の際に、「結果から何が言えるのか」という考察を確実に行うとともに、実験の失敗の理由なども考えられるようにする。

英語（実施学年：６年）

１．定着状況についての概要

学年		教科の正答率		観点別正答率	
		基礎	活用	知識・技能	思考・判断・表現
６年	目標値	79.7	72.5	79.4	75.3
	校内平均正答率	**88.9**	**80.0**	**88.5**	**83.6**
	区平均正答率	87.8	78.8	87.5	82.3

目標値および区平均正答率を上回っており、学習内容が概ね身に付いている。基礎的な知識を幅広い目的、場面、状況において活用できる力を伸ばす必要がある。

２．各学年における主な課題と課題解決のための方策

学年	主な課題	課題解決のための方策
６年	「音声を聞き、活字体の小文字を正しく書いている。(j)」について、目標値を下回った。	文字の形や書き始めの位置を意識できるようにし、なぞり書きや模写を繰り返すことで正しい書き方の定着を図る。また、定期的にミニテストなどを実施し、定着を確認する。